令和６年度第３回第四次紫波町観光振興計画策定懇談会　会議録

１．日　　時　　令和７年２月４日（火）13時30分～15時00分

２．場　　所　　紫波町情報交流館小スタジオ1、2

３．出席者等　　出席委員７人

髙橋栄悦委員、濱田織人委員、山縣春雄委員、石幡信委員、

佐羽根博一委員、澤里亜也子委員、石川ペギー委員

欠席委員２人

木戸章子委員、菊川佳代委員

事 務 局　　紫波町　産業部長（商工観光課長）　長谷川崇

　　　　　　　　紫波町　商工観光課副課長　作山文人

　　　　　　　　紫波町　商工観光課商工観光係長　須川翔太

　　　　　　　　紫波町　商工観光課商工観光係主任　髙橋侑真

　　　　　　　　紫波町　地域おこし協力隊　本田道也

４．経　　過

１　開会

２　議事

（１）意見公募（パブリックコメント）について

（２）第四次紫波町観光振興計画（案）について

（３）策定前の今後のスケジュールについて

３　その他

４　閉会

主な発言は以下のとおり

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| （１　開会）  作山副課長 | ： | 皆さん、お忙しいところお集まりいただきありがとうございます。  時間前ではございますが、皆様お集まりですので、進行させていただきます。  ただいまから、第3回、第四次紫波町観光振興計画定懇談会を開催したいと思います。  本日は、委員であります、石川ペギーさんに出席いただいております。  ご挨拶をお願いします。 |
| 石川委員 | ： | 石川ペギーと申します。フリーランスの英語の先生、あとはカンパネルラで仕事をしています。  よろしくお願いします。 |
| 作山副課長 | ： | よろしくお願いします。ありがとうございました。  それでは、議事の方に入りたいと思います。  前回同様、高橋委員長に議長を務めていただきたいと思います。  よろしくお願いいたします。 |
| （２　議事）  高橋委員長 | ： | 大変今日はご苦労様でございます。  今回も私の方で進めるということでございますので、よろしくお願いしたいと思います。立春でありながら、大寒波ということで非常に寒いようでございますが、ご出席いただきましてありがとうございます。  よろしくお願いいたします。早速議事に入りたいと思いますので、それでは、（１）意見公募（パブリックコメント）について、事務局から説明をお願いいたします。 |
| 事務局 | ： | 意見公募（パブリックコメント）について説明 |
| 高橋委員長 | ： | ありがとうございます。それでは、皆さんから意見を頂戴したいわけですが、まず、第1回目に濱田委員さんから、インバウンドのお話をしていただきました。それも含めまして、このオーバーツーリズムの問題点と言いますか、そういった情報などをお願いいたします。 |
| 濱田委員 | ： | 紫波でオーバーツーリズムの問題が起きる未来が来れば素晴らしいですね。今日、山縣さんもおいでになりますが、分かりやすく言うと部屋が足りないとか、タクシーが足りないとか、「しわまる号」が足りないとか、リソースが足りなくなっていて、町の人が生活しにくくなるぐらいまで人が溢れてしまうことをオーバーツーリズムと言いますけれども、第五次計画の時にそうなっていたら幸せかもしれない。  ただですね、紫波でオーバーツーリズムが起きないと思っている理由があります。盛岡と花巻に囲まれているので、それなりの物量と逃がし先があると思うので、一般的にオーバーツーリズムはないだろうなとは思っています。泊まるとこるが足りないなど。  ただ、日々、日中での人間の移動ですね、今「しわまる号」とかも今はほぼ町民の利用だけなので台数で足りていますし、夜の「しわまる号」のお試しみたいな取り組みが始まっていたりするので、地元の方々の声を増やしていくことで解消できるぐらいであろうと思っています。  そのぐらいで、どちらかというと、観光資源をこれからどう作っていくか、議論していくので、できた後にそういう状況が起きていれば、観光資源の開発がめちゃくちゃうまくいってるということだと思います。まずは資源を作るというところが第四次の計画にはきちんと記されているので、順番かなという気はします。  でも、大きな期待をしているコメントだと思うので、めちゃくちゃ前向きな話ではありますが、まだ心配ない現状だと思う。  本当に鎌倉や京都とか、そのレベルですよ。盛岡でも起きてないですからね。だから、特に京都は、僕ちょっと由来がありますけど、本当にもうすごいことになっているので、本当にもう歩きにくいとかですね。人がいすぎて、電車も普段空いてたのにもうきつきつになっちゃって、東京の通勤電車みたいな時間も本当に増えています。そうなってしまうと、やはり、暮らしにくいなということはあるかもしれないけど、まだ大丈夫というところが正直なところではあります。  でもそうなるように、また次の観光振興計画の時には、「あんな悠長なこと言ってましたが、第五次では入れなきゃいけませんね」と委員の方が、委員長の方がこうなっているといい未来だなという風に捉えてます。 |
| 高橋委員長 | ： | ありがとうございます。皆さん方の方でも、オーバーツーリズムというのはよくニュースなどで聞くことがありますけども、今のお話のように、そうなってくれればいいなということでございますが、皆さん、いかがでしょうか。  これに関しては、行政の方ではですね、国とか県とか合わせて、それぞれ自粛していこうというような考え方だという回答のようでございますが。 |
| 本田氏 | ： | ペギーさんから質問があるそうです。 |
| 石川委員 | ： | 岩手県の計画ではオーバーツーリズムの対策を取っていますか。 |
| 濱田委員 | ： | なっていないです。 |
| 石川委員 | ： | 電車を使う時、大学生、高校生が電車に乗ると、私は乗れない。  だから、ツーリストが増えるともっと大変になる。  岩手県のプランもオーバーツーリズムの対策をした方がいいと思います。 |
| 高橋委員長 | ： | 全くゼロではないということは事実。 |
| 濱田委員 | ： | 電車とかそういう交通とかは、時間をずらしたりとか、鎌倉の話をすると、江ノ電という2両の路面電車がありますが、地元の人が優先に乗れるようなパスを発行したり等で回避しているので、大丈夫かなとは思います。 |
| 石川委員 | ： | 盛岡のホテルの予約を取りにくい。思ったより、色々あります。 |
| 高橋委員長 | ： | 意識をしていかなければならないということは事実だと思います。  今お話のように、宿泊関係などは気になる部分はあります。 |
| 濱田委員 | ： | 町の商いという意味で言うと、他の町に流れてしまうということを、良しとするかしないのか。  紫波はホテルが数軒しかないので。多分今までそうなってきているから、きちんととどまってもらう。酒の町としては昼から飲むといいですけどね、やはり夜なので、夜飲んでもらって泊まるところがないというのは寂しい。以前も資料でもそのインバウンドの予算配分みたいなものをお示ししましたけれど、やはり宿泊費とか食事代は大きいので、そこを取りこぼすのはもったいないということはあります。 |
| 高橋委員長 | ： | この部分についてはよろしいですか。  はい。例えば、山縣さんの方では何か気になるようなことはありませんか。  宿泊施設としては。 |
| 山縣委員 | ： | オーバーになるほどのものでもないですし、インバウンド対策というのは。  紫波町いうか、ラフランス温泉館でも全く皆無。これからのこと。 |
| 高橋委員長 | ： | よろしいですか。  はい。それでは、（１）意見公募（パブリックコメント）について、につきましては以上とさせていただきます。  またご意見がありましたら後でまたお話させていただければと思います。  それでは、（２）第四次紫波町観光振興計画案について説明をお願いします。 |
| 事務局 | ： | 第四次紫波町観光振興計画案について説明 |
| 高橋委員長 | ： | 概要だけの説明ということですね。  あとは、その振興計画が変わって気になる部分ということでございますが、皆様方の方にはすでに配布済みだということですね。  それでは、一読してみて、いかがだったのか。皆様方のご意見あるいはご要望、そういったものがございましたらお聞かせ願いたいと思います。今まで皆様方がご意見やご要望等出していただいた内容も入っているものと思っておりますが、何かお気づきの点ございましたら、ご発言をいただきたいと思います。  前回までは交流人口と年間宿泊旅行者数という目標値がありましたが、それに加えて、色々な指標を考えてみたというところもあります。  ふるさと納税寄附金が一気に10億円になるか、かなりの高い壁だなと思ったりしますけども。 |
| 濱田委員 | ： | ものが売れると、観光として、そこに行ってみたいという方は増えます。  相乗的な効果はありますし、いいのではないでしょうか。 |
| 石幡委員 | ： | 概要としてはこういうものだと思うので、良いと思いますが、ただ、具体的に「連携」というけれど、そこが1番問題。例えば、観光交流協会に色々な町内で行われているイベントの情報が集まってくるかというと、ほとんど来ない。  オガールでやっていることすら知らないということが現状で、どうやって1か所に情報を集めて発信するかいうことを、どう作っていくか。そうしないと、我々、観光案内をやっていても分からない、聞かれても。前もってわかっていれば案内できますが、オガールでやっているのも、何かやってるなということしかわからなくて、ここの情報交流館に来ないと情報がわからない。毎月ここに来て情報をもらっていって案内していますが、町の中でやっていることなんかほとんど分からない。それから、例えば9月になると、ブドウの季節になれば、国道396号が渋滞するぐらいお客さん来るわけです。3つの産直に。ところが、こちら側には全然来ない。お客さんたちをどう循環させて町の中に行かせるか。あるいは、桜の時に、城山に行くけど他には行かない。町に良いところがいっぱいあっても、そういう良いところにまわせない。まわせなければその場で帰っていまうから、滞在時間が短いので落としていくお金も少ない。  その辺の連携という言葉の中の中身をどう作っていくかということがすごく大事ではないでしょうか。 |
| 高橋委員長 | ： | はい。お考えがあれば、どうぞ。 |
| 事務局 | ： | 具体的に、観光交流協会にどういう風に情報を集めるかというところについては、情報とは積極的に出している人にむしろ集まるような気がします。  出す方と集まる方は相関関係があるというか。  そういう意味では、去年から観光交流協会がInstagramというアプリで情報発信を始めてくれたことがすごく大きいと感じています。あれで我々も協会がどういうことを発信しようとしているかとか、今どういうこと考えるかということがキャッチしやすくなりましたし、逆に届けやすくなりました。  多分、協会の人もそう思ってくれているのではないかと思います。前よりは、いくらか、情報の流動性というものの、アンテナが高くなったのではないかなと思います。ということもあり、今回、目標設定として、この指標の1つにさせてもらいました。  協会も、Instagramのフォロワー数ということで。これは、有効活用したいし、例えば、委員の澤里さんも、ものすごい、Instagramが得意で、フォロワー数をたくさん持たれているので、例えば、こういうインスタグラマーみたいな方ともっと積極的に情報をやり取りして、それを協会からも発信するとか、紙のチラシだけではなくて、これからはSNSの方も有効活用して、その情報を集めて発信するということをやっていきたいと思っています。 |
| 石幡委員 | ： | このね、Instagramが不得意な世代が観光案内人なんです。  だから、そこも考えていただかないと、情報が入ってこないわけです。  得意な世代と、そうじゃない世代もあるから、そこのところを工夫しないと、どこかで情報が途切れてしまう。 |
| 事務局 | ： | そうですね。協会さんとしゃべーるさんの、案内所とのコミュニケーションも、町ももっと気を使って、一緒に円滑に進むようにしたいと思っています。  それもあって、この紫波中央駅の案内件数というところも目標設定にさせてもらいましたが、今までお任せしていた、駅関連の部分も、積極的に町も関与するようにさせてもらい、一緒に充実させることをやる必要はあると考えています。 |
| 濱田委員 | ： | ここは計画の策定の懇談なので、ぜひ、別で打ち合わせをする場所とかコミュニケーションが増えれば、情報の密度が増えるということなので、こういう場に限らず、具体の話はぜひ、動いた分だけ多分町が良くなるし、そういう今、生じている問題は解決に近づくはずなので、ぜひ会話を増やしていただくといいのではないかと思いました。いい話だと思います。 |
| 高橋委員長 | ： | 今現在の目標設定については、いい設定になるのかなと思います。ぜひ、観光交流協会のみならず、色々な発信団体があると思いますので、お互いにそういった発信をしながら、情報だけは共有できればいいなと。  今度観光交流協会の事務局も、完全にわかってるわけではないかもしれませんが、いくらか今までよりは動くのではないかと思っていますので、ぜひ活用していただきたいと思います。  実は、ホームページにも、色々なものをあげたいということで、色々な団体に声がけを、積極的にやるようになってきていますし、ぜひそういった際には、ご協力いただきたいと思います。  先ほど言いましたように、オガールでの、情報はなかなか取れていなかったというのが実態だと思いますので、行政からも、色々な活動をしていただいたり、動いていただきたいと思います。 |
| 濱田委員 | ： | 難しいですよね、ちょうど紫波の規模だと。こう3000人ぐらいの町とかだと、町のホームページの中にそういう機能持たせてやる場合もありますけど、別に規模が小さいわけではないですから、この町は。  だから、どこが旗を振るかというのは、結構みんな、空気を読み合ってやらないということが起きてしまうと、結局、来たいなと思った人が調べたときに欲しい情報が取れないので、じゃあほかの街で良いか、となってしまう。このような事前の離脱みたいことが増えていってしまうので、今回、目標値として、観光交流協会のフォロワー数とか、対応数というものであれば、ここに集約するように町がアナウンスしたり、協会の人たちももっと普段コミュニケーションを取ってたり、してみるとかして、集まる情報は待っていてもダメだし、取りに行くというのもおかしいというような関係だと思うので、多分、お互いが動かないといけないと思う内容でもある。とはいえ、多分、町のサポートがないとできないという現実があるので、呼び水は町がやった方がいいとは思います。僕は外の人間なので、外の人間的にはこう、一目で全部わかる方が来たくなるし、回遊したくなるし、色々なことをやりたくなるので、町でそういうシンプルだし難しいことではないです。きちんとアクションを起こす時期なのかもしれないですね。この四次計画になって。三次まではわりあい観光よりは、という感じでしたが、多分五次計画ではオーバーツーリズムを目標としていくのであれば、やはり四次はそうやって意識的に交流人口も、多分今オガールの視察にだいぶ頼っていると思います。でも、それは視察なので観光ではありません。ほとんど仕事です。みんなそう。だから、きちんとプライベートというか、遊びたくなるような町というか、個人的に自分のお金で何かを買いたいとか、何かを体験したいと思っているものをどう提示していくかにかかっています。  酒の町であるということ、この調査データにもありましたが、自然のアクティビティのスコアが高いので、やはりラフランス温泉館のリニューアルもエリアブランディングのビジョンみたいなものを作りましたが、そこにも割とそういう内容はしっかり入れたつもりなので、これから始まるであろうリニューアルについてもこういう要素入れていってあげると3世代を取り込めるかなと思います。そういう入り口になってくれると、四次計画が終わる頃にはラフランス温泉館の改修が終わっています。だから、四次は種作りだと思います。  五次計画できちんと仕掛けてくるような形になると思います。こういう会議体とか、民間の人たちが毎年頑張らなければいけない。こういうところは少し長期的な視点で見てあげなければいけない役目だと思います。四次計画でどれだけ準備やネタを作れるかという形になってくるのではないでしょうか。 |
| 石幡委員 | ： | さきほどの城山の件、例えば1つ例を挙げると、インバウンドの話になりましたが、海外から来る人が多いのが桜祭り。結構多いです、あの時期は。ところが、皆さん来たらすぐ帰える。あそこだけ。城山では前はイベントを色々やっていましたが、コロナ禍を経てみんな高齢化してしまい、もう誰も動けない状態になってしまった。桜祭りとは名ばかりの状態。今でそういう状態で、さらに熊でだいぶ邪魔されています。そういう状態なので、どうあの地域を巡らせるかと、五郎沼とか、陣ケ岡や滝名川とか、やはり桜のところをその時に巡ってもらうために、関係者が集まって、こうやったらいいんじゃないかという話し合いの場を、最初は役場が声をかけてやってもらえば、あとは動き出せば、役場が離れても動くと思います。そういうのは、すごく大変です。例えば酒屋巡りやりたいという時も、1軒1軒回って歩いて了承を取るということなると、大変です。たまたまタケハラさんがフルーツパークでいいよ、やっていいと言ってもらえたから、酒屋さんと組めるというようにできました。そういうようなシステムといいますか、そういうものをうまくで作ってくれると、企画する方ではすごく企画しやすい。 |
| 高橋委員長 | ： | ざっくばらんに皆さんが今思ってることをお話しいただければと思いますが、はい、いかがですか。 |
| 濱田委員 | ： | お酒も1個絶対キーですよね。 |
| 高橋委員長 | ： | はいどうぞ。 |
| 石川委員 | ： | ツーリズムは誰が対象ですか。観光だけですか。あと勉強も入っていますか。例えば農業。そう、例えば大学で色々な研修会をやります。海外の大学からの受け入れ。 |
| 濱田委員 | ： | 今言ってたのは、いわゆる農業の学生の研修とかも観光に含めるのか、というお話でした。今回は多分いわゆる旅で来る人、旅行者のことに限ってると思うというお話しでした。 |
| 澤里委員 | ： | こういうのかどうなのかなと思ったことがあります。そのうちの1つが、紫波町で年間の予定でいつ何があるのかということは、大体春夏秋冬で何かということはわかりますが、何月何日にこれがあるという年間予定みたいのがもしわかると行きやすい。岩手県でもイベント情報とか発信はされていますが、ギリギリだったり、イベントのある週末や、イベントの前の週でなければ情報が出てこないということが多々あります。1ヶ月前に情報を出してもらえると、例えば新幹線だと、安く切符が買える方法もあります。こういう、もっと事前に情報が分かると良いかと思います。もし、年間で確定というのは難しいとは思いますが、大体この辺りにこれがあります、というものがあるといい。  2つ目は、お土産の開発について、紫波町でコレというものがない。誰かやってくれないかなと思っています。そういうコンテストや、そういう料理研究家の方もいると思いますので、そういう方の活動や地域おこし協力隊などがいらっしゃるのでコンテストをできたら面白いのではないかと思います。  3つ目は、紫波町でイベントをやりたいけど、どこでやればいいかわからないという声が結構、イベント主催者の声をいただきます。廃校になった小学校を借りれませんか？というようなもので、例えば、紫波町で今ここ使えますというような情報をアップしてもらって、それを元にここで何かイベントをやりませんかというようにすると、イベント主催者でやりたい人は結構多いので、そこでイベントの場所を貸し出して、イベント開催するとなると、紫波町自体も悪いことではないと思うので、そういう場所がもしあれば教えていただきたいなと思いました。計画でここを貸し出せそうだよ、ということがわかるといいなと思いました。 |
| 濱田委員 | ： | めちゃくちゃそうだと思います。 |
| 石幡委員 | ： | 先ほどの石川さんのお話しと関係すると思いますが、大学生たちは結構来ています。県外から。國學院大學はどういう形で来てるかというと「循環型まちづくり」ということで、森林の下草刈り等をしに来て、ここに定着している方もいらっしゃる。だけど、それをやってるのが環境課なんです。実際にそれを具体的に運営してるのは、みらい研です。みらい研はそれ以外にもアグリツーリズムをやっている。全く隣の部屋の観光交流協会と情報共有がない。そういうとこるがやはり1番問題である。赤沢にも結構岩手大学の学生が入っていたり、色々なところに結構学生たちは来ていますが、繋がっていません。  それぞれがそれぞれでということがあります。  それからお土産ですが、前々から、これは課題です。せっかく良いのがあるけれども、高齢化で作られなくなってしまった。例えば駄菓子屋さんの駄菓子を小さい袋に入れてお土産にならないかという風にやったけれど、やはり難しいというのでダメだった。これはすごい課題です。  それから、イベントの色々な情報も確かにそうだと思います。我々は地元に住んでいるから、ある程度ここを借りれる、あそこを借りれるとわかるけれど、その人から見るとなかなか難しいのではないかと思います。 |
| 高橋委員長 | ： | はい、頷いてしまいました。 |
| 濱田委員 | ： | 誘致を目標とするのであれば、こちらから動かなければいけない。相手が動いたら対応するというやり方は、人気があるところがやれる手法なので、むしろ来てもらいたい場合です。こちらから準備しないと来てくれない。いずれその来たものに対して対応するということを目指したいのであれば、情報をきちんと用意しておいてあげる必要があります。むしろ来てもらいたいわけですから。やはり誘致というのは、そういうことだと思います。使いやすかったり、親切だったりとか、なかなかアウェイのところで人を呼ぶことを手伝ってくれたりとか、やはりサポートが欲しい方々が多いので、こちらから動ける体制ができるといいですね。 |
| 本田氏 | ： | 今の会話、ペギーさんかからちょっと一言ある。  日本語で僕は伝えさせていただきますと、さきほど石幡さんからお話あったように、国内の学校に行っている外国人の学生だけではなく、海外の大学に対しても、日本に来てこういう勉強しましょうとか、日本の伝統的なものや技術に触れましょう、というようなことがあれば、大学で教えてるとしても絶対引きがあると思います。  さっき石幡さんもおっしゃっていた、対象となる場所によって役場内の担当部署が変わってしまうというのは、なるほどな、と思いました。そういった海外の大学からも研修に来てもらえるようにというところを視野に色々考えていきたいということをおっしゃっていました。 |
| 石川委員 | ： | 岩手大学と交流協定を締結している、カナダの真ん中のところにあるサスカチュワン大学の農学部はすごいです。サスカチュワン大学から岩手大学に学生が来て2週間ぐらい勉強をするようです。 |
| 本田氏 | ： | ペギーさんが仰るには岩手大学に2週間ぐらいのプログラムで海外の大学とかが勉強しに来られているそうです。 |
| 石川委員 | ： | 紫波が大好きで、紫波には素晴らしい農家がいます。農業の勉強をするのに、重要な場所になるのではないでしょうか。詳細は分かりませんが、岩手大学との提携による特別なプログラムが組まれているようです。 |
| 本田氏 | ： | 岩手大学の短期留学プログラムの取り組みがあって、行われている。詳細はわからないですが、外国人学生との取り組みに力を入れているそうです。 |
| 濱田委員 | ： | 農業を学びに来る学生はどこに宿泊するのでしょうか。農家に泊まったりするのでしょうか。 |
| 石川委員 | ： | よくは分かりませんが、ホテルなどに滞在するのではないでしょうか。農家に泊まるのは素敵な考えだと思います。 |
| 濱田委員 | ： | なるほど。そういう学生の学びの観光。農家さんに滞在してもらって、というプランを作ると面白いかもしれないですね。若い子たちは、やはりSNSなどの波及力もあります。それで来てもらうというのはあるかもしれないですね、 |
| 石幡委員 | ： | 個別にはあっても、制度としてはできていないですね。 |
| 濱田委員 | ： | しかし、岩手大学と話して町として受け入れますと言うと、面白いですね。もしまたそういう大学生が町に溢れるというのは、町としては嫌なことではない。  変な、マナーの悪い人たちがわざわざ来るより、ずっと良いではないでしょうか。学生さんが来て、きちんと農業学びたい子が増えるというのはめちゃくちゃいいですよね。僕もそういうのはいいと思う。 |
| 石幡委員 | ： | 来てるのは研究室単位。大学全体ではなく。 |
| 濱田委員 | ： | 学びとしても、毎日ホテルに泊まるより、農家さんと、ホストファミリーではないけれど、第二の田舎ができるみたいなものなので、留学の良さとは。岩手大学と、町で提携するというのは面白いかもしれないですね。  農家さんが多い紫波町だからできる取り組み。 |
| 石川委員 | ： | 紫波ではいろいろやっています。米農家さんの甚乃米など、農薬を減らして栽培している方々がいます。 |
| 濱田委員 | ： | フルーツパークのワイナリーでもオーガニックワインに挑戦したいと思っています。「農×〇〇」というのは、紫波町らしいと思います。 |
| 高橋委員長 | ： | そうなると、農政課といった別の担当課になってしまう。でもそれが一緒になれば良いですね。 |
| 濱田委員 | ： | 何かを増やすために、やはり手を取り合わないとできないことでもあります。 |
| 高橋委員長 | ： | 間違いなく産業部ですから。部長、いかがですか。 |
| 長谷川部長 | ： | ツーリズム協議会という民間組織があり、その方で民泊の許可を取って受入をしています。ほとんどが農家さんですが、その方たちが受け入れをしているという事例はあります。 |
| 濱田委員 | ： | いいですね。素敵です。酒蔵さんとかがやってくれるといいですね。 |
| 高橋委員長 | ： | そうですよね。酒米を作るとか。 |
| 石幡委員 | ： | 結構接点はあります。観光ではありませんが。それこそ、この日曜日も、歴史かるたのイベントに県立大学の学生たちが5、6人来て手伝ってくれてましたし、それから、私の古館のNPOにも防災でお手伝いしてくれます。学生たち、個別にはこう来てくれています。ただ、町として受け入れて、こういうことやろうというまでにはなっていません。 |
| 高橋委員長 | ： | 今、海外の皆さん方にも受け入れをしていこうということでございますから、ぜひ行政も一緒にお願いしたいと思います。  個々でやっているものを広げていければ良いですけど。 |
| 濱田委員 | ： | 個だとやはりどうしてもパワーが出せないです。束ねてあげるのがやはり町ですし、町は応援する立場だと思います。  何とか関係なく、予算をどうするのかという役場の都合はありますけが、ただ、意見や声は繋がっていてほしい。  お金で切った張ったはやってもらえばいいと思いますが、せめて情報はお金とは関係ないので、繋がるといいなと思います。 |
| 高橋委員長 | ： | すぐ結論でる問題でもないと思いますが、ぜひ考えていかなければならない大きなテーマであろうと思います。 |
| 濱田委員 | ： | 要素として入れられるのであれば、入れておけば誰かが動きやすくなるかもしれない。 |
| 高橋委員長 | ： | はい。ほかに何かございませんか。どうですか。山縣さんの方では何か。 |
| 山縣委員 | ： | 遊び場調査のその意見は大事ですし、色々な、お母さん方でも悩みに悩んで出したものだと思うので、それぞれやりたいことはいっぱいありますが、足元というか、例えば、まずはこういう協会と商工観光課とか、その情報発信ができる、先ほど石幡さんが仰ったように。それだけでも完璧になるようにするとか。  年間計画、例えば、僕は祭りをやっていますが、祭りは基本的に日にちは決まっています。それから、地域によっては何日と決まっているところもある。必ず何曜日だろうが。例えば石鳥谷のお祭りは9月10日と決まっています。そういうので計画することも可能です。  あとは、去年1年間で1番コロナ禍があけて、イベントで色々なことを打とうと思ってやりますが、絶対に何かのイベントと日にちがバッティングします。同じようなイベントが同じ日にやっていたり、商店街でやっていたり、オガールでやっていたり、なんでこんなことになるのかなと思います。結局それは、やはり情報がわかっていなかったということ。あと、矢巾とか盛岡と被っている。イベントは大体10月に集中します。  例えばここでも、酒のお祭り等をやっても、日詰では山車とか御輿の祭りやっていたので、重ならないようにそれを持っていた。お客さんが集まらないかなと思って。そういうところも含めて、役場は駅前なので、商工観光課の中に観光協会を作ってしまえばいいと思います。予算的にそういうことにもならないと思いますが、建物の中に入れてしまえばいいのかなと思います。別の場所ではなくて、その方が役場に行けばわかるということであると思う。みらい研もそうですけど。本当に、例えば、観光地の場合は、やはり集中してやらないと、集客で、僕らもそうですが、若い子たちにInstagramをやってもらったり、Facebookだったり、色々な企画を立ててもらっていますけど、やはり1人で色々なことやってるので、どこかで、やりきれない。なんでも仕事は、やりきってなんぼじゃないですか。ここまで、ある程度良いところまで行って、あと一押しできない。もう時間とか人の関係で。どうしても、中途半端になってしまう。 |
| 高橋委員長 | ： | 今お祭りの話が出ましたが、実は私個人として、委員長としてではなくて個人として話をしますが、どうしても今はお祭りの日程は、土曜日、日曜日になってしまった。ほぼほぼそうなっています。なぜかというと、そのお祭りに対応する人が土日でないと参加できないという事態になってきているからです。ですから、ほぼその時期、秋祭りはもう大体集中してしまう。  小さな話ですが、志和八幡宮で1月5日は裸参りをやっています。今年、参加人数が多くなりました。裸になる人数が。外国人も2人今年入りました。日本に住んでいる方だと思います。そういったように、色々な形で参加してもらっています。まとめたのは吾妻嶺の社長の佐藤元社長が、動いたようです。実は、矢巾の神社で行われている墨付け祭りも土曜日の開催になった。場所も狭くて危ないというので、大きな広場になった。そういった問題がこう出てくるので、どうしてもそういう時期的なものというのは同じ時期に重なってきます。  あとはもう話題性の多い方にお客さんが行くという形になりますので、その辺は課題でもあるなと。本来の神社の祭りの日は決まっています、本来は。それを動かしたわけですよね。そういう課題はなかなか解決できないかもしれないですが、だとすれば、もっと早めに日にちは決められると思います。同じお祭りで。 |
| 山縣委員 | ： | 僕もラフランス温泉館に勤めて6年目ですが、どちらかというと拠点型観光というか、ここに滞在してくださいというやり方はしてきませんでした。「ICを使って、岩手県の臍なので、ここから盛岡へ行けます」「早池峰山へ登山へ行けます」「どこへ行けます」というやり方が主流。紫波町でどう観光させるかということは考えたことがありませんでした。ラフランス温泉館の宿泊数を上げることをやってきました。また、新しい視点を設けなければいけないと思います。その魅力に、どう行けば良いのかというのは自分自身もまだわかっていないところがあります。生まれた頃から酒蔵を見ていれば、どのような魅力があれば分かるというものですよね。 |
| 高橋委員長 | ： | そうですね。はい。色々な意見をどうぞ。 |
| 石幡委員 | ： | 今、高橋委員長が言ったように、確かにかち合うのはしょうがないけれど、ベースとして年間行事予定ができていればよい。お祭りさえ、みんなわからないと思う。  その地域の人はわかっているけれど、町全体としてお祭りはこうなっているというのは、ほとんどわかっていない。ある程度動かせない行事はこういうところに入っていますということすらわかっていない。せめてそういうベースができていれば、その間を縫ってイベントを企画するということも考えるのではないでしょうか。  そして、徐々にそれが積み重なってくれば、年間行事となって、出てくるのではないかと思います。そういう気がします。 |
| 濱田委員 | ： | カレンダーあってもいいかもしれないですね。クリックすると、場所や時間がわかってとか。それぐらいあってもいいのではないか。それは手間かからないと思う。 |
| 山縣委員 | ： | 観光に使える、例えばお祭り。観光としての祭りみたいな動きも必要なのだろう。 |
| 濱田委員 | ： | 便利ですよね。 |
| 山縣委員 | ： | 今は別にお祭りは地元の人がやってるだけ。ただ、岩手県内のお祭りをほぼ見ていますが、あれだけたくさんの人が集まるお祭りは日詰の祭りだけです。集まってますよ。さんさ踊りももちろん集まっています。  たかだか山車や御輿の普通の地元の祭りにあんなに集まるのは、岩手県内でも他にありません、盛岡でもない。盛岡のお祭りは盛岡八幡宮の祭りだから集まっているだけで、1市町村で集まるのは日詰だけ。手前みそですが例えば僕らは御輿をやっています。この一基の御輿を担ぐために300人集まります。担ぎ手だけで。それは関東から30人ぐらい来ますし、それから群馬、千葉、東京等。ちょっと変な人たちもいますが。その人たちは、日詰に1人1万円ぐらい使っています。ラランス温泉館は、背中に絵を描いてる人、温泉に入れないので、グリーンホテルに泊まっています。それは30人ぐらい泊まっています。観光的な要素のものを作っていけばいいかなと。わかりやすいですよね。  さくら祭りもしかり、なんとか祭りというのは、ゼロから何かを作るよりはやり始める時にはやりやすい。あるものを広めるのが早い。久慈等の動く山車であるとか、宮古とか。そこよりも日詰の人数の方が倍ぐらい多いです。 |
| 高橋委員長 | ： | びっくりするくらい人出があります。そして、お客様は若い人が多いですね。紫波の花火も夏祭りもそうですけども、お子様連れは、結構多いです。 |
| 事務局 | ： | イベントのカレンダーのようなもの、スケジュールについてはこちらに色々な場面でそういうお話をいただいています。これからもう1回改めて協会の事務局の方と相談させてもらって、どういう作り方で、どういう情報の集め方がいいか検討したい。 |
| 石幡委員 | ： | 動かせないものと、動かしてもいいものと、結構出てくる。 |
| 山縣委員 | ： | 市町村のInstagramはありますか。 |
| 事務局 | ： | 公式なものは。紫波町の公式のInstagramはありますけが、どちらかというと、広報紙「しわねっと」などの公式な情報出すためのもの。 |
| 山縣委員 | ： | 一般的なものとかですね。売り上げ上がるようなものは出来ないということ。 |
| 事務局 | ： | 観光要素としては今は行っていません。 |
| 山縣委員 | ： | それは観光交流協会さんの方ですね。 |
| 事務局 | ： | そういう役割分担がいいのではないかと考えています。そのようなイメージでいます。 |
| 石川委員 | ： | Instagramだけですか。ホームページではタイムラインスケジュールは出さないのですか。 |
| 事務局 | ： | 出していません。 |
| 石川委員 | ： | なぜでしょうか。 |
| 高橋委員長 | ： | 把握したいですね。 |
| 石川委員 | ： | 私は年をとっているので、ホームページを色々見ています。ホームページにタイムラインがあるとわかりやすいと思う。若い人にはInstagramが良いでしょう。しかし、Instagramを使っていない人もいます。外国人はどうやってInstagramを探すのでしょうか。ホームページは情報にリンクすることができます。簡単に情報を見つけることができます。なぜそんな簡単なことができないのでしょうか。 |
| 本田氏 | ： | 観光交流協会のホームページには簡単なものがある。 |
| 事務局 | ： | 「何月」までの情報が観光交流協会のホームページにあります。仰るのは多分、それよりももう1つ具体的なもののイメージだと思います。 |
| 山縣委員 | ： | こういう町村で人口3万人ぐらいとか全国で観光とか、インバウンドの対策をしているところはありますか。例えば盛岡市が訪れるべき都市に選ばれましたが、何が事前にやったのか？元々、そんな急に連絡来て、「実はなったんですよ」なんてなるわけないのではないか。半年も、1年前から動いていたという情報は盛岡市に入っていたのではないか。  今度、盛岡市では宿泊税を導入するそうです。導入するというか、計画がそうなっていて、紫波と盛岡のホテル協議会というものがありますが、そこの会合に行くと、その話で内舘市長が講演をされたりしました。紫波町の話しとは全く関係ありませんが、盛岡市では宿泊税と言っておきながら、宿泊事業者が「税金をください」と言うようなイメージになっていて、使うのは観光振興だそうです。だったら、手づくり村の入場料も取れば良いし、小岩井農場の入場者からも料金から観光振興の税金を取れば良いのではないかという話になっています。チグハグなイメージになってしまっています。で、結局、宿泊税とは何か？さんさ踊りのために道を広げるためとか、ちょっと交通整理するためのものを立てますとか、それに役立てますなどと説明されますが、じゃあ宿泊税じゃなくても良いのではないか。ホテルには入湯税という考え方があるので、大変な抵抗感があります。温泉施設は入湯税と貰っているので、ネットで1万円の予約した人でも、もうチェックアウトの時に「入湯税を150円いただきます」と言えば、「はい、わかりました」と理解を得られるが、ビジネスホテルはその感覚がないために「わざわざ取るのか？」と感じるようです。 |
| 本田氏 | ： | ペギーさんから質問1つ。ふるさと納税とかのお金はこういう観光の環境改善には使われないのでしょうか。 |
| 事務局 | ： | 選択項目にはあるはずです。 |
| 高橋委員長 | ： | ちょっと個々の話になってしまいましたが、今お話あるものはですね、やれるものについてはどんどんやっていこうということで進めたいと思います。  せっかくですね、この計画とは別個にでも構わないと思うので、進められるものを進めると。  観光交流協会でですね、ホームページで日程が入っているイベントは、協会で行う事業の日程です。そうではなく、各神社の例えばお祭りとか、各民間でやるものまで取り入れていないということが現実です。そこまで入れられれば良いというお話しですから、調整もできるでしょうし、そういったところをぜひ行いたいです。ただ、ちょっと課題もあります。思想信条の自由とか、宗教は自由とか、色々なことが絡んでくるとちょっと厄介になりますけれど、それだけとなれば、そう問題にはならないのかなと思います。できる範囲内でまず検討してみるというのが最初だと思います。 |
| 石幡委員 | ： | お祭りはクリスマスと一緒だからね。 |
| 高橋委員長 | ： | あと、他に何かございませんか。はい、どうぞ。 |
| 澤里委員 | ： | 2月から始まっていますが、JRで「キュン♡パス」というのが始まってる。  その「キュン♡パス」を、せっかくやっているのに、1日1万円で新幹線を乗り放題。2日間で1万8千円くらい。行き放題というのが始まったのですけど、そのチケットが取れるのは14日前までが期限です。これで情報がもっと早めに、それこそカレンダーじゃないですが、情報が出ていて、この日にこれがあるという情報があれば、色々なイベントももっとあったのかなと思いました。結論で言うと、JRとコラボとか、そういうものがあるともっといいのかなと思いました。 |
| 本田氏 | ： | 一応ですね。今年の9月から11月にJRの中で岩手県が重点共創エリアという指定を受けました。どういうことかというと、JRの9社、北海道から九州まであるところ全部で9月から11月は岩手に行きましょうという企画をやっています。それをきっかけに今情報収集を始めておりまして、それは貴重な意見だという気がして、こちらからも対象にできることがないかということを提案していきたいと思っています。 |
| 高橋委員長 | ： | ぜひ岩手に来る有効な手立てとしてほしいです。 |
| 澤里委員 | ： | すごいことです。これはもうもったいないと。ただし、岩手県は冬にあまりイベントがないと思い、今、毎週イベント情報について、岩手県のものを全部集めていますが、なかなかないです。  だからこそ、このイベントがいいと思います。去年もやっていて、今年もやっていて、来年もどうなのでしょう。「キュン♡パス」ではないですけども、やはり1ヶ月前だと「トクだ値」という30％オフでチケットが買えるというものがあるので、観光客がこちらに来る機会になれば良いと思います。 |
| 佐羽根委員 | ： | まず計画策定お疲れ様でした。すごく大変だったのかなというとこはすごく感じています。  その中で、ちょっと今各論のことをお話されているので、僕は、各論のことはよく詳しく調べないとわからないところがあるので、全体的なところだけお話を、意見というか感想というかをお話しさせていただければと思います。  まず、計画ですので、全体的な計画なので、次が多分アクションプラン（行動計画）だと思うので、ここは多分とても大事なところなのではないかと思います。今の皆さんのお話をやはり聞いていると、何をやるの？誰がやるの？というようなところですね。また、この計画というのは多分最上位にあって、計画倒れにならないように、この4年間やっていくのだろうという風に思っています。ぜひ関わった僕もここに関わらせていただいているので、やはり中間でどうなっているのかとか。やはり大体僕も10何年ぐらいこの計画策定は携わっています。もう絶対的に計画倒れ。もう見返さない。いい悪いではなくて。やはり人も変わっていきます。色々な事情があるとは思いますが、やはり重要になってくるのがアクションプランです。  誰がやるの？多分皆さんがおっしゃる通りだと思います。  もう絶対的に、フラッグシップを立てるところは絶対的に必要です。間違いなく必要です。おそらくここで色々なご意見が出て「やろう」となっても、絶対的にみんな行政に目が行ってしまうと思います。それは、違うということ、もう世界は変わってきています。やはり、ここは色々な世代間を超えて、やはりラブッグシップを立てる組織というのを、ここの場合は、変えていくのか作るのか、色々な地域によって違うので、事情を踏まえた上でフラッグシップを立てることが絶対的に必要だと。私は、色々なところを見て、感じています。  3万人まではいきませんが、僕は三重県の明和町というところに関わらせていただいたことがあります。その隣には松阪や伊勢といった大きい街があるところの真ん中にあるほんの住宅地です。そこも日本遺産を抱えていて、何をやっていいかよくわからないようなところで、観光振興というフラッグシップを立てた商社があります。これはDMOです。そういったところで、きちんと小さいながらも自分たちの課題を見据えて、住民サービスと観光客のサービスとの両立をしていくという小さな町村もあります。ぜひそういったところを参考にしながら、うちは真似できるものがないのか、やはりりそういったところをフラッグシップを立てるところがやっていくべきなのではないかという風に思っています。  順番的に言うと。この計画、すごく大変だったと思います。その上でお話をさせていただくと、どの市町村でもこの流れです。大体この流れ、大体人だとか組織は1番最後です。でも、皆さんのお話を聞いていくと、1番課題なのは5番の組織のところが上なのではないかと僕はずっと思っています。多分、優先順位とか色々あって、こういう順番とかもあると思いますが、優先順位をこう書いてるのかな等と見る人もいるのではないでしょうか。そういったところを見せながら、人とか組織というのは実行していく上では必ず大事になってくるので、やはり次のアクションプランをどこが立てるのかというところも非常に重要になってくるではないのかと思っています。  それから、実行していく上で、先ほどペギーさんからも学生のお話があったと思いますが、この中で、どうでしょう、1年間というか年度で、何々大学が来て、いつ来てたかというリストを全部出せと言われたら、多分出てくるでしょうか。管轄してる部署は多分わかると思います。では、どういう人たちが今来たかとか。  ただ、そういったところをやはりこの計画をスタートするにあたって、もう一度、今来てる人はどうなのかということ。来てる人というのは、レジャーではなく、スポーツ団体もそうですし、学生さんもそう、どこの大学の何々学部が何名来てるということをきちんと365日見える化を一旦した上で、この月この学生来てるよねとか、ここは落ちているけどここで何かできないのかとか、そういった全体を俯瞰したもの、先ほどのカレンダーではないですが、そういうところも必要だと思います。365日のカレンダーなど色々なことを、指標を見た上で、この時期こうやるべきだということを、当月に入ってからはできないので、おそらく来年の話とか半年後の戦略を話さないといけないと思いますが、やはりこのスタートにあたって、この計画が4月からスタートされると思いますので、次のスタートの段階で、次、もう半年後だと思うので、秋冬に向けた中での話だとか、来年に向けての戦略作りだとか、そういったところを、ぜひぜひ、この計画に則った中でのアクションプランを作っていけばいいのではないかと思いました。  非常にこの計画づくりは、小さい町村だとなかなかデータが少ない中での策定だったと思いますので、ぜひこの計画を、1つのシンボルというか、立ち返るところ、なぜこれやっているのか。そういった計画に立ち返って実施をしていくという、新しい紫波町の観光振興計画であってほしいと思いました。  以上です。 |
| 高橋委員長 | ： | はい、ありがとうございます。結論になってしまいましたが、ぜひ、今言ったようなところを十分に伝えていかなければと思います。  はい。あと、なにかございませんか。 |
| 石川委員 | ： | 紫波町はなぜツーリズムを増やしたいのでしょうか。紫波町は観光以外に強いポイントがある。例えばオガールはスポーツで大変使われている。違う努力をした方が良いのではないでしょうか。情報発信を増やして、「自然」にプラスで少しツーリズムが入るような。 |
| 本田氏 | ： | 前回の懇談会で話題になりましたが、紫波中央駅に降り立った時に自然に入れる観光コースのようなものがやはりまだ無いのではないかなと。他の町ではやはりわかりやすいところもあるのに、紫波町では不十分で、閉じられてるというか。 |
| 石川委員 | ： | 観光客がたくさん来る町に住んでいると、大変です。日帰り旅行の情報が簡単にあると便利です。観光地に住んだことありますか？私はあります。大変な思いをしますよ。カナダ山脈の町に住んでいました。盛岡市と姉妹都市のヴィクトリア市に住んでいたことがあります。すごい人出で、いろんなものに税金がかかります。車でバンクーバーの市街地に入るのにも税金がかかります。 |
| 佐羽根委員 | ： | そうですね。東北本線、僕は毎日乗っていますが、ペギーさんがおっしゃった通り学生が多いので、当然、地元の人の足なので、ツアー客とか観光客が利用するというのはごくごく一部だと思いますが、でも平泉とか一関まで行く電車にはお客様がが乗っています。キャリー持ってる人は1発でわかる。ただ、それは旅行客なのか帰省なのかわからない。でも帰省というのも1つの旅行だと僕は思っていますので、そういったツーリズムについてレジャーからも1回やはり取っ払って、1回分解して、もう1回仕切り直して、どこ狙うかということをやらなくてはいけないと僕は思っています。  今のお話の中で言うと、盛岡駅から紫波中央駅まで約20分ぐらいです、20分。たった20分です。これはJRさんともこれからアクション取られるということですが、車両は増やせないと思いますが、臨時とかで色々できるところがあると思います。この20分で来れるっていうこの距離感って、で、降りた時に何するかという、この次のサービスが必要になってくると思います。  ここは多分良し悪しがあると思いますが、知っている範囲で言うと、KDDIさんがやっているmobiなどの小型のバスで巡ってもらう。それこそAIを使った自動運転も、もう通常の自転車も必要だと思います。でも結構スムーズに行くのは、mobiを導入して回らせるなど色々あると思いますので、そういったことを、何個かオプションを出してみて、これはできる、でもこれは将来できるかもとか、これ今はできない、これ今できるといった、フラッグシップを立てていくというところが、僕はそういった組織が必要だとは思います。やり方はいっぱいあるので、こういった今のペギーさんのお話などをそれぞれの頭で色々解釈して、それを出して、できるかできないかというところを1個1個検討していく。多分この20分はすごく恵まれていると思います。  東京駅から来て、盛岡から4つの駅ですよと言えばそれだけでいい。4つの駅ですよ。時間は2時間かかってしまいますが。僕は外でプレゼンする時には必ず、盛岡から4つの駅ですと必ず言います。4つの駅で来れますよ、と。時間は言わないですけど。そういった出し方というか見せ方というのは僕も一方で必要だと思いますが、着いた後の手、今出た自然のツアーに行くというその滑り出しみたいなところから言うと、もっともっと、色々なテクノロジーを使いながら、色々な素材を使いながらやると自然のツアーや観光に入っていくのではないかなと思います。今の話を受けて感じたところはあります。車両を増やすことはできないと思いますが、この20分というのは、とてもこの近い距離感はすごいと思います。お酒を飲んでも、大丈夫です。 |
| 高橋委員長 | ： | 我々にはちょっと目に見えないというか、あまり実感してない部分を、皆さんから色々ご指摘もいただきました。ぜひ、そういったところを、十分、今後、色々なものを出して選択していくという方向にできればと思います。  ありがとうございます。あとはいかがですか。今日の予定は、3時までということですが、皆さんお忙しい方々でしょうから、3時までということで進行を言われております。もう少しという方、いらっしゃいましたらどうぞ。よろしいですか。  ぜひ、この第四次の計画が、先ほどお話しましたように、計画倒れで終わらないように、これからの行動が必要であろうと思います。よろしくお願いします。よろしいでしょうか。  それでは、計画の懇談会、以上とさせていただきます。  3回、皆さん方にはご足労いただきました。  大変ありがとうございました。では、事務局の方に移します。 |
| 事務局 | ： | 3回ということで、皆さん、お集まりいただきまして、本当にありがとうございました。  こちらの方の観光の振興計画をしながら進んでいきたいと思います。産業部長からあいさつをお願いいたします。 |
| 長谷川部長 | ： | 大変ありがとうございました。観光に力を入れていかなければと思います。今回、幸いにも皆さんがそれぞれの各分野の第一線で活躍されている方々をお招きして、様々議論いただきました。第四次計画ですが、今までで1番充実した議論がされたのではないかと個人的に思っています。様々いただいた意見を、これからそのアクションプランなどに落としていきたいと思っています。  色々ありますが、まずはやはりすぐにDMOというわけには多分いかないと思いますので、まずは観光交流協会と、密になって、今日いただいたカレンダーの件も含め、1つ1つ解決していきたいと思っております。  2010年に地方消滅ということで人口減少が叫ばれて、地方創生が始まったわけですが、それから10年経っても、人口消滅という本を読むと、転入転出の社会増減に関してはもう都市間の戦いになってしまい、どこかが減るとかどこかが増えるというようなことになっています。一方で自然減の対策は実は全くできていないということが言われています。それは何かというと、若い女性の方々にいかに定着していただくかということだということです。子育てとか色々あるわけですけれども。それを考えると、やはり、地方から都会に出ていく時に、職業が自分にマッチするものがないということで都会に出てしまう。  それは今第3次産業の時代なので、第3次産業は、こういった地方にもしっかりしたものにならないかなと思います。そういった中で、観光というものがその第3次産業の中で成長できる分野ではないかと思っています。私は、産業部長なので、1次産業も2次産業も今まで通り、それは基盤でありますけれども、3次産業をどうテコ入れしていくかが、この女性の定着に繋がって将来の紫波町の可能性に繋がるものだなという風に思っています。そういった意味でも、観光はすごく大事だという私は認識してるところでございます。これから4年間、オーバーツーリズムを目指してぜひ頑張っていきたいと思います。3回にわたって大変ありがとうございました。 |
| 事務局 | ： | ありがとうございました。  では、以上を持ちまして策定懇談会を終わらせていただきます。  皆さん、本当にありがとうございました。 |